

足立としゆき 夢だより 番外編

2024年11月

9月20日からの豪雨により、能登半島では、洪水や土砂災害が発生し、甚大な被害を生じました。これを受けて、約半月後になる10月7日、特に大きな被害を受けた、輪島市と珠洲市の被災現場を調査しましたが、今年1月1日に発生した能登半島地震の被災と相まって被害が拡大しており、今後の復旧・復興に全力を尽くしていきたいと考えています。



参議院議員 足立敏之

輪島市

被災地に入るため、金沢市内を出発し、のと里山海道から能越自動車道で輪島市に向かいました。両自動車道とも震災直後は寸断されたり片側通行だったのが全線通行可能となっており、復旧・復興が着々と進んでいることが実感できました。

【河原田川の被災現場】

土砂災害で被災した河原田川の緊急復旧工事の現場に伺い、現場を担当している鹿島建設の方からお話を伺う事が出来ました。大規模な土砂災害に対し、直轄権限代行でなければ復旧は出来ないと感じました。



【中屋トンネル被災現場】

震災で被災した中屋トンネルは、開通間近にまで復旧が進んでいましたが、今回の水害によりトンネルに至る道路がいたるところで寸断されており、トンネルの坑口の2 km手前で道路が完全に崩落してしまっていました。トンネルの復旧工事に当たっている安藤・ハザマの伊東土木部長にご案内をいただきました。この現場は今回の豪雨災害で安藤・ハザマの現場事務所長が土砂崩れに巻き込まれ犠牲になられた現場です。心からご冥福をお祈り申し上げます。

【塚田川の被災現場】

輪島市久手川町の塚田川の被災現場に伺いました。「土砂洪水氾濫」という土砂や洪水、流木の大氾濫により谷全体が濁流に見舞われ、住宅も基礎だけが残っているような状態で、大変悲惨な状況でした。この現場の復旧は技術的にも非常に難しいと考えられ、直轄権限代行の重要性を強く感じました。なお、この現場は女子中学生が流され犠牲になられたところです。慎んでお悔やみ申し上げます。

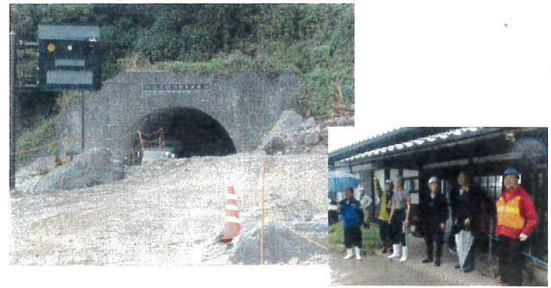


【国道294号 仮設迂回路】

能登半島の外浦の沿岸部を走る国道249号沿いの、輪島市野田町の「白米千枚田」の付近では、大規模な土砂崩落箇所を迂回するため、地震により隆起して現れた岩盤を生かし、その上に大型土のうと盛り土で2車線の仮設迂回路を整備していました。施工は清水建設です。しかし、この付近は大雨により再度山腹崩壊で大規模に被災したため、仮設迂回路をさらに冲出して盛土を行い、再整備していました。

【国道249号 八世乃洞門新トンネル】

国道249号の輪島市町野町曾々木側の八世乃洞門新トンネルの被災現場に伺いました。輪島市町野町曾々木と珠洲市真浦町を結ぶトンネルですが、土砂崩落のため、通行止めになっていました。現地で刀根建設の栗倉社長や、近くの住民の皆さんから大規模な土砂崩壊についてお話を伺うことができましたが、ここでも直轄権限代行により施工する必要性を強く感じました。



【町野川、鈴屋川の被災現場】

輪島市町野町の町野川と支川鈴屋川の合流点付近の氾濫現場に伺いました。大量の流木が橋に引っかかって大規模な氾濫が発生したとのことでした。流木はすでに処理されていましたが、浸水被害の爪痕はしっかり残っていました。今後、河川断面の拡大が必要と感じました。

珠洲市

【若山川の被災現場】

大雨による増水により護岸が洗屈され、川沿いの新しい家屋が川に倒れ込んでいる若山川の現場に伺いました。テレビでも何度も紹介されている現場ですが、川幅が大きく広がって被害を拡大していることに驚きました。



【大谷地区】

1月の地震で孤立状態となっていた珠洲市大谷地区に伺いました。大谷トンネルや烏川橋は引き続き通行止めで、迂回路を經由して、土砂や洪水、流木等により甚大な被害を受けている現場に伺いました。ここでも、直轄権限代行による復旧が必要と強く感じました。外浦沿いの国道249号を西に向け輪島方面に進みましたが、海岸沿いに大規模な土砂崩落がいたるところで発生しており、珠洲市と輪島市を結ぶ国道の復旧にはかなり時間を要するように感じました。



今回の被災地調査により、地球温暖化の影響で激甚化、頻発化する災害に対しては、市町村や県の対応力には限界があり、高度な技術力や大規模機械力を有する国の権限代行事業を活用することが重要で、それに必要な防災・減災、国土強靱化事業やインフラ整備の予算の確保が必要であると痛感しました。まさに、「国土強靱化待ったなし」を実感しました。

内灘町・かほく市

能登半島豪雨の被災地調査に先立ち、本年1月の能登半島地震を起因とする液状化により被災した内灘町とかほく市の視察に、10月6日(日)、伺いました。

現地は、壊れたままの住宅が目立ち、人影も少なく、復旧・復興はほとんど進んでおらず、時が止まったような状態でした。なお、大崎地区の榑原神社だけは公費解体されており、更地になっていました。鎮守の社の復興を願う区長や神社総代など地元関係者との協議を踏まえ、新宮を再建されるそうです。



<http://www.adachi-toshiyuki.jp> TEL03-6550-0501 後援会会報 2024.11